



## あなたの本の楽しみ方は？ …読む？見る？聞く？触る？

太田容次

大学には様々な人が集い、学ぶ。その中でも、大学図書館は、学生、教職員などをはじめ、市民の利用もある。いうまでもなく、大学図書館の目的は、「利用者に情報を提供すること」であり、研究・教育活動を図書や様々な資料などの多様なメディアで支えることにある。多様な価値観、生き方、特性などダイバーシティと言われる昨今、図書館には、多様なニーズに応える、誰もがアクセス可能な図書館となることが求められている。これらのことは、「障害者の権利に関する条約」や「障害者差別解消法」などで求められているからだけではない。誰もが自由に学ぶことが当たり前だと思うからである。

2009年3月ロサンゼルス中央図書館 (<https://www.lapl.org/branches/central-library>) と UCLA の図書館 (<https://www.library.ucla.edu/>) を訪問する機会を得た。そこでは、点字ブロックやスロープなどは当たり前で、筆者が驚愕したのは、当時国内の図書館ではほとんど見ることのなかった弱視者が読書をする拡大読書器や画面拡大ソフト、読み上げツールが利用可能な状態で設置されていたことである。また、肢体不自由者向けのキーボードやジョイスティックなどのマウス代替機器などが設置され、利用希望があれば、誰でも自由に

## 京都ノートルダム女子大学 司書・司書教諭課程 ニューズレター

### 目次

巻頭言

あなたの本の楽しみ方は？

…読む？見る？聞く？触る？／太田容次 …… 1

司書課程から

特別講義 LLブックについて

—知的障害者の読書を支援する—／岩崎れい …… 2

情報資源組織論／鎌田均 …… 2

卒業研究から

人はなぜフェイクニュースを信じてしまうのか／上野友里亜 …… 3

地域資料の公共図書館ならではの

価値ある提供方法について／竹花安純 …… 3

現場の先輩、先輩の現場

本の魅力を伝える図書館に／都築美佳 …… 4

書架から書庫から／吉田海 高木孝菜 …… 5

実習報告

国立国会図書館関西館／上田楓子 …… 6

国立国会図書館国際子ども図書館／大塚瑞 …… 6

実践報告

障害者サービスの担当委員として／山田友香 …… 7

日々往来 …… 8

使えるのだそうだ。さらに“墨字”と言われる紙に印刷した書籍を読むことができない視覚障害のある人や発達障害等で書籍の文字を読むことが困難な人に対しては、要望があれば点字化や電子化する体制をとっていると聞いた。これは、障害のある人にとって優しいだけでは無い。誰もが歳をとり、視力を始め様々な身体機能が低下した時に、優しい図書館になるということだ。

特別支援教育の視点で見ると、この10年で大きく変わったのは、教科用図書として学習者用デジタル教科書が制度化されたことである。その特徴としては、拡大縮小、ハイライト、共有、反転、リフロー、音声読み上げ、総ルビ、検索、保存などのデジタル機能が使えることである。例えば、紙の教科書だと音読が難しい子供には、音声読み上げ機能や、文字の大きさ、背景色、テキストの色、行間・文字間隔の変更機能を活用することで、音読などの学習に主体的に参加できる場面が増えるだろう。

これからの図書館は、読む、見る、聞く、触る・・・誰もが利用可能なユニバーサルデザインが当たり前になってほしい。

参考 URL 文部科学省 学習者用デジタル教科書の制度化  
[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/kyoukasho/seido/1407731.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/kyoukasho/seido/1407731.htm)

(こども教育学科准教授)